市政について問う！

一般質問

【代表質問】

第四回（二月）定例会では、市長の平成二十八年度施政方針に対する代表質問が行われ、六つの会派から質問がありました。

日本共産党沼津市議団

市民が人生のステージで主役になるための本市独自の支援は

川口　三男

問 市民の日常生活の現場を捉え、市民の人生のステージを国の方針に基づき支援していくと述べているが、国の方針に基づく市政運営では、市民は人生のステージで主役になれないと考える。本市独自の支援制度の創設や予算の確保に向けた考えは。

答 市長／本市独自の施策及び予算の確保について、平成二十七年十月に策定した総合戦略において、「沼津における安定した雇用を創出する」、「沼津への新しいひとの流れをつくる」、「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」、「時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する」という四つの基本目標を掲げ、就職、出会い、結婚、出産、子育て、教育など、人生のそれぞれのステージにおいて切れ目のない支援を行う施策を掲載した。具体的には、本市の実情に合わせ、沼津しごと応援事業、出会い応援事業、こども医療費助成事業など六十八事業を位置づけている。各施策については、喫緊に取り組む必要があることから、国や県の支援策や有利な起債等を最大限活用するとともに、ふるさと納税などによる自主財源の確保にも努め、着実な推進を図っていく。

自民沼津

Sea級グルメ全国大会の誘致を

尾藤　正弘

問 年間百四十五万人が訪れる沼津港を最大限に生かしていくことが、今後の本市発展への近道と考えるが、みなとオアシス制度の活用による事業展開とSea級グルメ全国大会を本市へ誘致する考えは。

答 市長／沼津港は、平成十九年十一月に県内初のみなとオアシスとして認定を受け、これまでに中部みなとオアシス会議の開催や国の大型作業船清龍丸の防災訓練及び見学会等を実施してきた。みなとオアシス制度の活動は、沼津港への来訪者が首都圏を中心とする中、中京圏を初め、全国からの来訪を促進する貴重な機会と考えていることから、今後も積極的に取り組んでいく。また、その一環であるSea級グルメ全国大会については、全国のみなとオアシスが集い、自慢の一品を競うイベントであり、本市は、鯖を使ったラーメンや串団子、アジの干物の素揚げを出品してきた。この大会は、回を重ねるごとに注目を集め、集客力も向上していることから、開催地には、集客による広域的な経済効果やメディアがもたらす宣伝・イメージアップ効果等も期待されている。本市としても、地域と一体となって誘致に取り組んでいきたいと考えている。

公明党

高尾山古墳保存と沼津南一色線の両立に対する今後の進め方は

片岡　章一

問 高尾山古墳の保存と都市計画道路沼津南一色線の整備について、①両立の方針が明確にされていない今の段階で、高尾山古墳の保存・活用のために必要な整備についての寄附・ふるさと納税を募集したことに対する認識は。②両立を図るには、これまでの経緯に配慮する必要があると考えるが、今後の進め方は。

答 市長／①高尾山古墳の保存に関するふるさと納税について、現時点で整備方針が確定したわけではないが、古墳の保存と道路整備の両立には、相当な費用が必要となる。高尾山古墳は、国民共有の貴重な財産であると認識しているが、その保存・活用のために必要となる費用の大半を沼津市民が負担することは過重と思われることから、必要な追加費用に充てる市の財源確保を目的とした寄附・ふるさと納税の募集を開始したところである。②沼津南一色線整備は、これまで地元住民を初め、多くの関係者の理解のもと進めてきた。特に、東西の生活道路の整備については、地元住民の二十年来の協力があったと理解している。整備方針を具体的に決定するまでには、これからもさまざまな調整が必要であり、丁寧に進めていきたいと考えている。